

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

大阪版

おおさか AALA
非核・非同盟・平和・友好・連帯

〒540-0004

大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

2025年 5月1日 No.627

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

J.F ケネディー空港 (ニューヨーク)



日本AALAからの参加者を含む代表団一行

核兵器禁止条約・第3回締約国会議開催されました

今こそ核廃絶を！

激動する世界情勢のもとで。3月3日からアメリカニューヨークの国連本部で核兵器禁止条約第3回締約国会議は7日、核抑止論を批判し、核兵器の廃絶が、「世界の安全保障と人類の生存にとって必須である」と強調する宣言を採択し閉幕しました。

今回は、条約締結73ヶ国のうち56の締約国31のオブザーバー国が参加しました。

日本からも、日本AALA代表としての谷本盛光さんを含む11名が日本原水協代表団として登録参加しました。

宣言は、核兵器使用は、「破滅的な人道的・環境的結果をもたらすことへの重大な懸念」を改めて表明し、「日本被団協が、2024年のノーベル平和賞を受賞したことを祝福する」と述べています。

来年の秋。核禁条約再検討会議を開催

宣言とともに採択された決定によると、核禁条約の運用と目的達成の進捗状況を競技する初の再検討会議を、来年11月30日から12月4日にかけてニューヨークで開催することを決めました。

南アフリカが議長国を努めます。

被害者支援と環境修復の国際信託基金の実現を

また同会議では宣言で述べられていることを受けて、「核兵器の使用や核実験の被害者への支援と環境修復のための国際信託基金の設立」の実現を目指としています。

- 3月3日から7日まで国連(ニューヨーク)で開催された。
- 条約締結73ヶ国のうち56の締約国が参加
31のオブザーバー国が参加
(スイス、オーストラリアなど)
- 前回参加したベルギー、ドイツ、ノルウェー
(NATO加盟国) は不参加
- 市民団体 (NGO) 163団体が参加
第1回締約国会議には85団体
第2回締約国会議には122団体
- 再検討会議は、
2026年11月30日ー12月4日国連 (ニューヨークで開催)
議長国は南アフリカ
- TPNW (核兵器禁止条約) は、
条約発効から5年後 (以降6年ごと) に、
「条約の運用および目的の達成状況を検討するための
会議」



核兵器禁止条約は激動の時代における希望の光

新潟県AALAの谷本盛光さんが、2025年3月14日に、日本AALA第5回常任理事会(拡大)で、第3回締約国会議に参加した報告を行いました。その簡単な紹介です。

以下の写真、囲み分は、谷本報告から適宜抜粋したものです。

2日目にかけて行われた市

民社会の専門家による2つのパネルディスカッションでは、各国政府やNGOの代表がフロアから積極的に質問を投げかけ、活発な議論が展開された。

TPNWプロセスの特徴として、NPT(核拡散防止条約)プロセスでは認められていない市民社会による作業文書の提出が可能である点も特筆すべきである。

これにより、NGOの見解や主張が国連の公式文書として記録に残されることが可能となり、政策形成における市民社会の影響力をより確かなものとしている。

締約国会議は、政府関係者や市民社会を問わず、若い世代が(もちろんそれに限らないが)、広島・長崎の被爆者や核実験被害者の生の声を聞き、対話を通じてその経験を受け継ぎ、自らの力としていく場としても貴重である。

2日目に行われた平和首長会議・ICAN主催のイベントでは、被爆者と若者が「世代間対話」をテーマに議論を交わした。

その中で発言した米国の若者は、被爆者との出会いが自身の活動の原動力となったことを熱く語る一方で、そのような機会が核保有国の若者にはきわめて少ないことを嘆いていた。

ピースボートによる
朝鮮半島の非核化」分科会



「核兵器使用の確率はわからないが、ゼロではないことは確かであるが、それが0.001%かもしれないし、1%、いや10%になるかもしれない。いずれにせよ、原発の過酷事故想定確率よりも高いと思われることは衝撃的だ。」

核兵器は、核兵器を保有しているか、核抑止に賛成か断固反対かにかかわらず、すべての国の安全保障、ひいては国の存在そのものに対する脅威である。

核兵器に内在する危険性と、その国境を越える世界的な結末は、すべての国の安全保障が核兵器によって脅かされていることを明らかにしており、したがって、すべての国は核兵器の完全廃絶を緊急の安全保障上の関心事としている。一部の国が軍事および安全保障の概念、ドクトリン、政策において核兵器に依存し続けることは、世界的な安全保障を損ない、エスカレーションのリスクを高め、核拡散のリスクを増大させる。

今回の会議の特徴

- * 多国間主義
- グローバルサウスの存在感
- * 高まる市民社会の存在感
- * 主戦場は安全保障のための「核抑止か核廃絶か」

2025年度 第63回大阪AALA定期総会 議案書 ダイジェスト版

◆ 2024年度活動報告

1. 大軍拡反対・核兵器廃絶の運動と国際連帯のとりくみ

① 「戦争するな!どの国も」第10次国際署名

個人・団体合わせて1779筆が集約できました。目標の3000筆には及ばず、前年より1割ほど少ない集約数となりました。11月26日から12月1日にかけてのラオス平和交流のツアー(18名参加・大阪からは3名)に参加して、ASEAN議長国であるラオスを訪問し、日本AALAに集約された1万3865筆の署名をラオス外務省ASEAN局長に直接手渡しました。

2. 学習と理論活動を重視したとりくみ

国内外情勢の変化をつかみ、諸活動に活かせるように、専門家や第一線で活躍している人の話を聞いて学習し、意見交換などを行ってきました。

① AALAカフェ

ほぼ2カ月に1回の開催を目指してきましたが、他の取り組みとの関わりなど

で、不定期的な開催となりました。参加者は10人前後から20人弱と小規模ながら貴重な「継続する学習会」となっています。

2024年度の実施経過

・第39回 2024年7月20日(土)

テーマ「日米安保の今」

講師・守山 禎三さん

(AALA会員)

12名参加

・第40回 2024年9月22日(日)

テーマ「パレスチナ問題を考える」

講師・山上俊夫さん

(AALA会員)

13名参加

・第41回 2024年10月19日(土)

えきちか森ノ宮

テーマ「アメリカ大統領選のリアル」

講師・Mat tKasteさん(高校教師)

参加 17名

・第42回 2025年3月22日(土)

テーマ「映像の世紀に見るアメリカの暴力」

録画を視聴 意見交換

8名参加

・第43回 2024年

4月19日(土)

テーマ「トランプのアメリカは何をやるうとしているのか」

講師・安井 倫子さん

参加者16名

② 英語で世界を読む会

第1火曜日の月1回を基本とし、定期的開催を続けています。世界情勢や時事問題に対応したテーマのテキストを選び、参加者が輪読と翻訳をするというパターンを続けています。日本の新聞では報じられない事件、異なる視点からの問題提起は貴重なものです。コーヒータイムの後には感想などを述べあい、討論にも話がはずみます。参加者は6〜10人で、大阪AALAにおける学習サークルとして大きな役割を果たしています。

③ ミャンマー問題

今年度はミャンマー情勢についての大阪AALA独自の学習会などは開催できませんでしたが、3月20日にWebで開催された日本AALAのミャンマー学習会に参加しました。

④ パレスチナ問題

昨年9月22日パレスチナ問題を理解するため、AALAカフェとして会員の山上俊夫さんを講師に学習会を開催しました。また、アメリカ総領事館前の抗議行動にも参加しています。

3. 海外ツアーや文化交流活動

① 新春のつどい

1月19日(日)に貸会議室・えきちか森ノ宮で開催しました。

ミニバンドによる歌と演奏や国際平和署名をラオスに届けたツアーの報告、参加者の一言スピーチなど楽しい交流の場となりました。

他府県AALA会員や会員外など20人の参加がありました。

② 「ベトナム平和交流ツアー」

数年ぶりの海外ツアーとして実施しました。ベトナム戦争時から新聞記者として活躍してきた日本AALAの理事でもある鈴木勝比古さんをコーディネーターとして、JU観光企画による2月7日から13日まで6泊7日のツアーでした。



ホーチミン市・政治囚の合唱団との交流

企画に際して「実行委員会」を組織し、また「日本ベトナム友好協会」による現地の情報提供などの協力を仰ぎながら、内容と期日を決定し、準備を進めてきました。

当初は、目標とする参加者が集まるかどうか不安でしたが、23名（鈴木さん、尾川さんを含めて）のツアーとなり、盛況で交流の深まった意義あるツアーとなりました。

4. 組織拡大と強化

① 会員増やし

昨年4月から今年の3月の間に迎えた新会員は4名ですが、退会者は21名となりました（うち死去による退会5名）。また、機関紙読者は6名が増えました。購読中止者も3名あります。

会員の高齢化と経済的な理由により退会者が増えることは避けることのできない問題です。新会員・新読者を増やすことは大阪ALAにとって最重要課題です。

② 地域班づくり

市区町村の地域ごとに近隣の会員の絆と連帯をはかり、大阪ALAの支部としての組織づくりをめざしています。そのため市町村ごとの会員名簿を作成しましたが、地域支部を組織するまでには至りませんでした。

5. 財政活動

会費納入願いと振込取扱票の送付は年間数回行ってきました。今年度の会費納入率は目標とする9割を超え、カンパなどの金額も増

えました。しかし、会費や機関紙代の数年にわたる未納もあり、会財政を圧迫しています。大阪ALAの財政・組織を支える上で引き続き未納会費を減らすとくみをすすめていきます。

6. 平和・国際友好団体の交流と連携

大阪革新懇、大阪安保、憲法会議、大阪原水協、大阪母親連絡会、国際女性デー大阪実行委員会などの団体には担当役員が各定例会議に参加し連携を深めてきました。

日中友好協会、日本ユーラシア協会、日本コリア協会、日本ベトナム友好協会の国際友好団体とは、今後の協力と連携をすすめていくことが求められます。

7. 機関紙等の充実、改善のとりくみ

① 機関紙「おおさかALA」

毎月発行の機関紙は、昨年度より5人体制のローテーションで編集・発行しています。毎月の記事集めと編集作業が予定通り進まない

ことも多く、月末の発送作業に間に合わせるための担当者の負担が大きくなっています。また、不慣れさの克服と、脱字・誤植などのミスがないような校正も求められます。

② ホームページの充実・SNS利用について

大阪ALAのホームページの更新は、個人（浜辺副理事長）の力量と努力に頼っている状態が続いているので、複数の担当者で取り組むなどの改善が必要です。また、ラインアプリを使っているグループ通信を一部取り入れましたが、有効に活用していない面があり、今後利用を促進していく工夫も必要です。

◆ 2025年度の活動計画（案）

1 「戦争する国」に突き進む自公政権から「戦争しない国」への政権交代実現が最大の国際連帯です

昨年の総選挙では自公与党を過半数割れに追い込むことができませんでした。自公政権が少数与党になっ

たことで国政運営には大きな変化が現れてきましたが、一部野党の政権すり寄りによって悪政は継続しています。

また、アメリカいいなりの姿勢は変わることなく軍備拡張に突き進み、台湾有事の際には日本が戦争の最前線に立つことになるという危険性が増大しています。

日本とアジアの平和にとって危険極まりない自公政権を夏の参議院選挙でも過半数に追い込み、政権交代を実現させることが求められます。

戦争しない国にすること、そして地球環境を守るため国際連帯を進める国にすることが最大の国際連帯であるとの認識を持ち、ALAならではの役割を発揮できるように活動します。

2 学習と理論活動を重視しながら国際的重要課題に取り組みます

情勢の変化に応じた活動を進めるためには学習が欠かせません。

特にALA諸国についてのメディア情報は、欧米諸国に比べて少なく、情勢

の構造的変化やその本質や方向性を捉えるためには、系統的・日常的な学習が必要で。

また国際的な重要課題として、ジェンダー問題、気候変動、食料問題、格差拡大の問題、国際的時事問題にも取り組めます。

そのため次の3点を重視します。

① 「戦争か平和かが鋭く問われる世界情勢」にふさわしいAALAの「第11次国際署名・戦争するなどの国も！」は、3000筆を目標として全力で取り組みます。

② 情勢に応じた学習会や講演会を計画すると共に、「AALAカフェ」や「英語で世界を読む会」のような対話型学習会の定期開催と拡大をめざします。

③ 当面する国際的な課題、ウクライナ侵略とパレスチナ・ガザ攻撃に対する平和的解決に向けて取り組む課題、またアジア、アフリカ、ラテンアメリカの政治変革の諸課題、身近な日韓関係や「ミャンマー問題」、さ

らに日中関係問題、また国際的人権問題に直結する問題などの取り組みをすすめます。

3 事務局体制を強化し、機関紙活動を改善・充実させます

① 事務局体制の強化のために事務局員を増やし、事務局会議の定例化を図ります。

② 毎月発行の機関紙は、担当者を増やし、企画・編集体制を強化します。また、編集技術の取得と共有化を図ります。なお校正段階で十分な点検ができるよう編集日程の余裕を持たせ、編集会議を開いて計画的に記事の収集・編集を進めていきます。会員や読者、他団体にもわかりやすく情報や問題提起が伝わるよう、さらに充実した機関紙をめざします。

③ 大阪AALAとしてその対応が遅れている「オンライン併用」による学習会や講演会は、参加者規模を広げる取組みとして、他団体と協力・共同で、独自の実施も含め今後も検討していきます。また、理事会や

常任理事会の「オンライン参加」も検討します。

4 海外ツアーや楽しい文化活動の企画をすすめます

AALAらしく異文化交流のできる企画と、趣味や特技を含めた会員同士の文化的交流や意見交換ができる取組みも企画します。

① 海外ツアーは日本AALA主催で「第11次国際署名」を今年のASEAN議長国マレーシアへ届けるためのツアーが11月末から12月初旬に予定されています。

当面海外ツアーとしてこの派遣団への参加を積極的

に呼びかけます。

② 大阪AALA独自のツアーとして、日帰りまたは一泊の平和交流のツアーを計画します。

また、海外ツアーも視野に入れ、他団体との協賛も含め、旅行社とも相談しながら企画を検討します。

5 組織強化と財政強化を図ります

活動の源泉は組織力にあ

り、その組織力は健全な財政に支えられていることが重要です。組織を底から支える会員の一人一人の繋がりをさらに強め、活動力を高めることが魅力ある取り組みに繋がります。さらに財政的課題の克服にも繋がります。

そのため次の3つの課題に取り組めます。

① 「組織強化」と「財政強化」は表裏一体のもので

大阪AALAの財政は極めて厳しい状態にあります。会員・機関紙読者の大幅な拡大に取り組めます。

また、会費・機関紙代などの徴収を確実にし、通年の組織強化募金の訴えを続けます。

② 「地域支部」づくりを進めます。市区町村ごとの会員名簿を整備し、地域ごとに近隣の会員の絆と連帯をはかります。

当面は、会員・読者への連絡、会費等の納入促進や地域グループ的なつながりをつくっていくことをめざします。

地域会員を対象にした「学習会」や「フィールド

ワーク」など会員の専門性や趣味と要求に基づいた取組みも企画します。

6 平和・国際友好団体との連携・交流を強めます

明るい大阪民主府政をつくる会、安保放棄大阪実行委員会、大阪うたごえ協議会、大阪憲法会議、大阪平和委員会、原水爆禁止大阪府協議会、進歩と革新をめざす大阪の会、日本コリア協会大阪、日本ベトナム友好協会大阪府連合会、日中友好協会大阪府連合会など、平和と民主主義をめざす諸団体との連帯・共同の活動を引き続き進めます。



現在も、「ルール違反のトランプ関税」が世間を騒がせています。そんな最中、今回のAALAカフェは、トランプ政権の政策について、安井倫子講師にお話を伺いました。

また41回のAALAカフェでアメリカ大統領選挙について講演していただいた日本在住のアメリカ人で、高校教師のMatt Kasteさんも参加してくださいました。

アメリカ人として今のアメリカをどう見ているのか話してくれました。

参加者16名でしたが時間の許す限り、参加者の質問にもお二人は熱心に熱く答えていただき貴重な学習会となりました。

2025/4/19

第43回
おおさかAALAカフェ

「トランプのアメリカは何をやろうとしているのか」
 ～分断社会アメリカの現状と変化の可能性～

講師 安井倫子 さん
 (大阪AALA 常任理事・大阪大学文学博士)



「分断に抗う壁画」 「語られなかったアメリカ市民権運動史」の著作があり翻訳も多数ある安井さん。永年に渡りアメリカ社会を研究してこられただけありお話は期待に違わず素晴らしいものでした。

今月号は、総会の議案ダイジェスト掲載のために多くのスペースをとることができました。すぐに連絡をとり、次号において、講師の安井さんの資料、パワーポイントによる講演の内容なども紹介しながら、原稿を書いていただくことをお願いしました。

快諾してくださいましたので、ぜひ次号をご期待ください。

「はじめに、24年の大統領選挙でなぜトランプが勝利したのか。」

① イスラエル問題への対処における民主党政権の失敗

② 移民問題の深刻さ

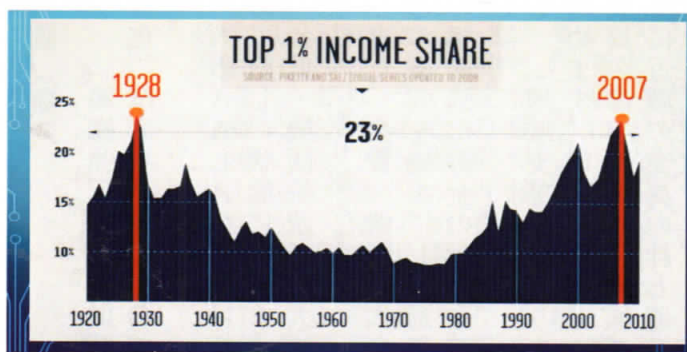
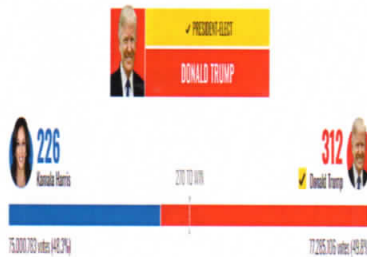
③ 経済問題への政策の欠如

講演のアウトライン

「自分達の足を撃つようなトランプの無謀な政策で「偉大なアメリカ」は復活するのか？」

② 20世紀のヘゲモニー国家としてのアメリカの凋落

本論
 (1) 第2期トランプ政権は何をしたのか

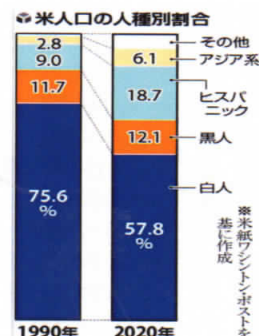


(3) 21世紀のアメリカの行方は？

(4) 分断に抗うアメリカ市民全米反トランプ・デモ4月6日 60万人 世界1300箇所

「自分の足を撃つようなトランプの無謀な政策で「偉大なアメリカ」は復活するのか？」

② 20世紀のヘゲモニー国家としてのアメリカの凋落



「日本メディアが伝えないトランプ就任45日」情報「の洪水」との戦い」渡邊裕子によるストーリー

(BUSINESS INSIDER) 2025年3月5日

その3
 ハイパー帝国主義について

その1
 あるアメリカ市民の述懐

卓ちゃんの ミクロネシア通信 その4

時と場所が変われば制度も文化も習慣も違う。

私が子どもの頃は、家で誕生日の祝いはありませんでした。みんな大晦日に年を取るから個別の誕生日祝いは要らなかったのかも知れないですね。青森での話です。

さて、ここ南国・南太平洋のミクロネシアで気がついた「異文化」を紹介します。

あくまでも、日本や私の生活感覚との違いで感じた部分だけです。

知らない人とも必ずあいさつ。街を歩いていてすれ違う人や家の前にいる人とは基本的にあいさつを交わします。時には握手をすることもあります。車中の人も手を上げてあいさつ。「ハロー」や現地語の「アンニム」であいさつをかわします。

時々「コンニチハ」と日本語であいさつしてくれる

人もいます。

ナンバープレートをつけていない車が大半。

チューク州のナンバープレートには数字の上に「DIVERS HAVEN」(ダイバーの楽園)と書かれています。



これがダイバーに人気で、ネット上で高く売れるため盗難が多く、その防止のために外しているそうです。

道路沿いや海の中には要らなくなった車や船が多数、捨てられています。

数キロの中に何十台もあります。スクールバスも捨てられています。ゴミはその辺に捨てるという意識がまだ抜けないみたいです。



バスや電車などの公共交通機関はなく、個人営業のタクシーとドライバー付きのレンタカーがあります。

タクシーは乗り合いで、発泡スチロールに「TAXI」と書きされたものがダッシュボードの上に置かれています。

電話で呼び出すことができません。流しているのをつかまえます。近頃は1人1ドル。夕方5時以降と日曜日はタクシーを見かけることは少ないです。

バイクはたまに走っているようですが、私は見たこととがありません。自転車はまれに見ることがあります。しかも、子どもが遊びで

使っているものだけ。道路事情が悪いためか二輪は敬遠されているみたいです。

島と島の移動は小型ボート。通勤もボート。州都以外の島々には車はなく、徒歩のみ。

犬はほとんどが放し飼い。番犬としての自覚が高く、家の近くを通ると吠えまくるから怖い。しかも、近所から仲間を呼び出して5、6匹で迫ってくるとゾッとします。木の棒を持ったり、石を持ったりして防衛しています。

噛まれる人は多いみたいです。警察に届けると噛んだ犬は処分されるそうです。豚の親子が道路沿いを散歩しているのにはビックリしました。子豚は楽しそうに走り回っていました。

郊外の道路沿いにはバナナの木と椰子の木がたくさんあり、自然に実をつけています。バナナがあのよう

にできているとは知りませんでした。



国家予算の6割がアメリカからの公的援助によるものだそうです。米、野菜、卵、肉などの食糧は大半がアメリカからの輸入です。

食糧自給率はとても低く、何らかの理由で輸入がストップしたらみんな飢えてしまいます。

自生しているココナツとバナナだけでは生きていきません。

まだまだたくさんありますが今回は以上で。これはミクロネシアの文化だと思いつつも、「おいおい」と思ってしまうことも多いです。

◆常任理事会の報告

4月9日開催

1 会員拡大の取り組みにつ
いて

昨年4月から今年3月までに

4名の会員を迎え、6名に
機関紙読者になってもらいま
した。

2 会財政の状況

会費等の納入は昨年度
より改善し、カンパも目標以
上に集まりました。

3 総会に向けて

4 AALAカフェの予定

5 第11次国際平和署名の
とりくみ5月3日の大阪総がかり集
会（扇町公園）で署名集めを
する。

6 その他

ベトナム元政治囚コース
団の来日を支援するために関
西での公演と交流会に取り組
む。詳細は今後

◆第5回理事会のご案内

日時 5月19日（水）

14時から

会場 大阪AALA事務所

理事・常任理事等役員の方
出席をお願いいたします。

2025年度

第63回大阪AALA定期総会

日時 6月1日（日）

13..30~16..30

場所

えきちか森ノ宮（貸会議室）

特別講演“

根底に流れる「植民地主義」を
私たちはのりこえられるか?!”

飯田光徳さん

（日本コリア協会・大阪理事長）

文芸欄

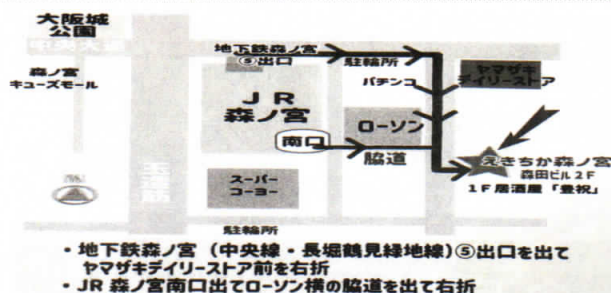
川柳

花粉症つらい鼻水はなづまり

落日は避けようもない自民党

巷では青息吐息物価高

大阪市旭区 近藤 正



「戦争するな!どの国も」

第11次国際署名にご協力ください

今秋、ASEAN会議に合わせ議長国のマレーシアに届けます。

目標個人 3000筆、団体50筆です。ご協力をよろしくお願いします。

大阪AALAへ
のお誘い

会費 月800円（年9,600円）（25歳以下は年3,000円）* 入会金500円

*会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4800円ずつ入金をお願いします。

*会費の中には機関紙代も含まれます。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送します。



Osaka

発
行

大阪アジア・アフリカラテンアメリカ連帯委員会（大阪AALA）

Osaka Asia Afrika Latin Amerika Solidarity Committee

〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361

E mail osaka_aala2@nifty.com HP://osakaaala.la.coocan.jp/

